

第9回 東備西播定住自立圏共生ビジョン懇談会 議事概要

- 1 日 時 平成 28 年 12 月 2 日（金） 14：00～16:00
- 2 場 所 備前市役所 3 階 大会議室
- 3 出席者及び構成員等 委員 13 名 （内アドバイザー 1 名）
アドバイザー 3 名 （岡山県 1 名、兵庫県 2 名）
事務局 9 名 （備前市 4 名、赤穂市 4 名、上郡町 1 名）
説明員 8 名
- 4 議事の概要

事務局 定刻になりましたので、只今から、第9回東備西播定住自立圏共生ビジョン懇談会を開会いたします。

開会にあたり、座長の備前市自治会連絡協議会会長 宇治橋様よりごあいさつをいただきます。

座 長 本日は第9回東備西播定住自立圏共生ビジョン懇談会を開催いたしましたところ、委員の皆様には何かとご多用の中、ご出席賜りまして誠にありがとうございます。今回より新しく委員になられました方におかれましてはどうぞよろしくお願いいたします。さて、この東備西播定住自立圏では、ご案内のとおり圏域全体の魅力の向上、活力ある地域づくり、住みよい圏域形成を目指して、圏域共生ビジョンに基づいた様々な事業を展開しているところであります。本日は、共生ビジョンに記載した取組みの進捗状況の報告や、平成 29 年度のビジョン見直し(案)についてご検討いただくとともに、住みよい圏域形成に向け、お互いに意見交換やご提案をいただければと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

事務局 ありがとうございました。

会議の前に、構成員等本日の出席者の紹介をさせていただきます。

(名簿により構成員等の紹介)

それでは、ここからは座長に議事進行をお願いいたします。

座 長 それでは、議事を進行させていただきます。「東備西播定住自立圏共生ビジョンの進捗状況について」、事務局から説明願います。

事務局 それでは、東備西播定住自立圏共生ビジョンの進捗状況として資料 1「平成 27 年度事業報告書」資料 2「平成 27 年度歳入歳出決算額集計」資料 3「平成 28 年度上半期報告」がございしますが、資料 1 を中心に説明させていただき、その他については、ポイント、要点のみ説明させていただきます。

なお、各取組みに関する詳細につきましては、各部会より説明員が来ておりますので、ご質問等につきましては、説明後にお尋ねいただければと思います。

(資料 1、2、3 説明)

以上で、東備西播定住自立圏共生ビジョンの進捗状況の説明を終わります。

座 長 ただいまの報告について、質問がありましたらお願いいたします。

委 員 ていじゅうろうのバスを運行させていただいております。昨年9月までは備前市の日生運輸さんが担当されていましたが、昨年10月から私どもが両方向から運行させていただくようになりました。実績にありますよう、若干利用者数が下がり気味で、なんとかしたいと思っております。私どもは地元の兵庫県内においてコミュニティバスを運行しておりますが、今日いただいたクリアファイルはどこで配っておられますか。ていじゅうろうの事も載せて欲しかったです。私どもはクリアファイルやペーパークラフトを作って、お子さんに、例えばバスの見学会をした時に配り認知していただくというPRをしております。気軽に声をかけていただいて、そういった時に、バスの出前講座、ていじゅうろうのPR促進に努めさせていただければと思います。よろしくお願いします。

説明員 クリアファイルは、昨年度作成したもので、各市町の代表的な写真を掲載しました。入っていなかったことはもう少し気を付ければよかったと思います。今後、機会がありましたら、圏域の情報を沢山入れていきたいと思っております。これは、各観光イベント等でPRのパンフレットを入れてお渡しをしております。

説明員 圏域バスの備前ルートの減少、利用促進についてでございます。先ほど運行業者さんからご指摘があったよう、今年4月から9月の半年で500名ほど利用者が減少しております。私どもも問題視しており、運行事業者さんと、情報を共有しながら、利用者のニーズを分析し、利用促進に繋げていきたいと思っております。

委 員 JRの利便性向上事業ですが、28年2月8日と2月12日に神戸と岡山支社に要望会ということで行われておりますが、JR側からの要望に伴う措置はどうなっているのかをお伺いしたいと思います。

説明員 JRへの要望活動につきましては、岡山と兵庫の県境市町村で要望会を行っており、例年同様の回答しか返ってきておりません。利用が促進されないと、「路線の増加」であるとか、なかなかできないということで将来的にも検討していきたいということでございます。

座 長 他にありませんか。

委 員 13頁の学校給食の広域連携で、特産品・地産池消給食レシピ集を作成したとありますが、9,600枚をどういうところで配布されているのかという事と、18頁の企業誘致の推進のところで、帝国データバンクに委託して、事業所等の現状、課題、ニーズや今後の動向等を把握、分析等を行っていると思いますが、これが、どう活かされているかを教えていただけたらと思います。

説明員 まず、学校給食のところですが、2市1町それぞれの給食センターで配送しております幼稚園・小・中学校の生徒と教員全てに配っております。市民の方へは

配っておりません。子どもさんを通じてご家庭に配布しています。

説明員

続きまして、企業誘致ですが、平成 27 年度は 2 市 1 町の主な立地企業の第 1 次取引先の売り上げ伸び率の上位で各 300 社を抽出して調査をしております。内容としては、製造業・物流・情報サービスといったところです。また、実施は電話による調査・アンケート等でございます。回答が 567 社ございまして 63%でした。その中で具体的な計画がある社が 30、検討中が 27、計 57 社が具体的に考えている結果でございまして、昨年度は 2 社程度、備前市から訪問をしております。ただ企業誘致というものは一朝一夕には実現しませんので、地道に取り組んでいきたいと思っておりますが、その 2 社については誘致には結びついておりません。本年度も調査をするわけですが、実際、立地を検討している企業へ直接アプローチをすると、今までの調査の中で実際に検討している企業へ直接アプローチすることが必要ですので、具体的な情報を収集するために帝国データバンクへ委託しており、岡山県、兵庫県に投資意向のある企業 20 社、エリアは未定でございますが、投資可能性のある業績好調な企業 30 社の概要データを取得するとともに、電話による企業進出の意向調査を実施いたします。現状、課題、ニーズや今後の動向等を把握し、集計、分析を行っていただきまして行政支援の方向性を掲載した報告書を作成していく予定でございます。

座 長

他にありませんか。

委 員

定住相談会を 27 年度は大阪と神戸会場でされておりますが、この定住相談がどの程度のものなのか、また、定住が促進されているのかを詳しく教えていただければと思います。特に赤穂市においても人口減少でありまして、年に 3 回程度といわず、相談があるのであればもう少し広げて開催していただければと思います。

事務局

具体的な件数でございますが、27 年度ふるさと回帰フェアの大阪は、相談組数は 8 組で 18 名、2 月 20 日に開催の相談会マイドームは、9 組で 13 名、最後に 3 月 19 日に開催しました神戸会場は、10 組で 15 名となっております。回数につきましては、当協議会 2 市 1 町での合同相談会は 3 回でございますが、各市町でそれぞれ相談会等も開催しております。可能な限り定住自立圏での相談会を増やしていければと思っておりますが、とりあえず同回数で今後も進めればと思います。また、実績につきましては、今年度で申し上げますと、相談会に来られた方が、赤穂市に 1 組転入されています。それから場所につきましては、関東地区のほうにもというお話もあろうかと思いますが、やはり大阪、近畿方面から希望される方が多数ですので、まずは近畿方面を重点的に行って参りたいと思います。

座 長

他にはありませんか。

委 員

地域医療の連携のところをみると 4 公立病院の医療従事者に対する研究会とか、4 公立病院の看護職の教育とありますが、これは公立病院の連携なのですか。

説明員 赤穂市民病院、備前市の備前、日生、吉永の４つの公立病院であります。

委 員 時間外の診療であるとか、地域を支えているのは民間病院ですよね。公立病院のこういう教育・研修は昼間されるのですか。

説明員 これは、１頁にありますように研究会は午後７時から、講演会は午後５時半からと夜にやっております。

委 員 赤穂中央病院の先生とか草加病院の先生には案内していないのですか。

説明員 はい。これは公立病院での案内になります。

委 員 これからの医療というものは公立病院でも、時間外に十分な親切な対応をしないと経営できない時代ですよね。公立病院が研修をされて親切でいつでも患者さんを診てくれるようになるのであれば良いのですが、現実には民間病院のほうが良く対応していると私は思います。

説明員 そういう部分も確かにあると思いますが、公立病院として夜間救急であったり、地域医療であったりというところを一生懸命取り組んでいるところでございます。

座 長 他には何かございませんか。

委 員 移住関係の事業について素朴な質問ですが、これは２７年度から始まっているのですか。資料１の２６頁ですね。

説明員 相談会の開催につきましては２２年度から始めています。

委 員 ということであれば、２２年度からの今までの実績、どういう状況かという説明も資料として出していただけたらより具体的に分かるのではないかと思いますのと、２８年度「資料３」ですが、これは中間報告になっておりますけれど、相談件数が２６組３６名となっております。こういった内容のことも、少し具体的にどういった町にどれぐらいの人が相談にお見えになっているのかと、またその時の現在の進捗状況はどうなっているのかという報告を詳しくしていただきたいと思ったのと、もう一つ、ＪＲの促進ですが、私は、初めてここに参加させていただくのですが、どういう内容をＪＲに求められていますか。

説明員 ＪＲへの要望は、３市町それぞれ、山陽本線と赤穂線のダイヤの増便、運行路線の延長などで、それらをひとつにまとめて要望しております。また備前市と上郡につきましては、自動改札機の早期導入という内容で要望いたしております。

委 員 この件に関して何年から要望が始まっているのですか。

説明員 合併前からずっとやっている事業だと思います。

委 員 具体的に何年前ですか。

説明員 少なくとも、合併して１０年１１年ですけれども、それ以前の時代から協議会がございまして３０年以上になるのではないかと思います。

委 員 私が商工会長に初めてなった時、上郡町でも協議会に参加させていただいており相当長くこの協議会を続けていると聞いています。進捗状況は、逆に後退して

いるようで、進んでいないと。上郡の駅長さんにも「なぜ進まないのか。時間と費用ばかりが積み重なって本当に無駄ではないか」と質問しました。同じような項目がここにあげられているのでお尋ねしましたが、実際、見込があるのですか。

説明員 正直、なかなか見込は難しいと思いますが、今年是要望を補てんするために、各市町集まって、取り組み状況を共有するためにどうしたら効果的な要望ができるかという協議内容で勉強会を行いました。

委 員 それも良いですが、いつまでにしていただくという目標は立てないのですか。

説明員 JRに関しては民間企業ですので、「いつまでにをやってくれ」ということにはなりません。申し訳ありませんが、お願いしていくしかないと認識しております。

委 員 この件に関しまして、今年 11 月 13 日に全国の商工会長が集まり陳情がてら会合に行ってきました。その折に、私どもの地元議員と一緒に参り、JR の自動改札もお願いしてきました。有年駅、上郡駅、三石駅と吉永駅、この 4 駅は自動改札になっていません。「公共交通ですから、平等でなくてはならないのではないですか」「時代も時代ですし、この 4 駅だけが自動改札でないのは疑問に思います」「どのように解決方法を考えてくれているのですか」と具体的にお願いしまして、前向きな話が得られました。なかなか前に進まないということを聞いておりましたので、機会があつて東京に参って申し上げましたところ非常に良い回答が得られました。何が言いたいかといいますと、ピンポイントに何がしたいか、どこにどのような形で申し上げていくかということが必要と思うわけです。そのためには具体的に目標を設置して取り組んでいくことが大事ではないかと思います。

座 長 具体的なお話を交えてご意見をいただきました。事務局はよろしいですか。

説明員 貴重なご意見ありがとうございます。次の要望会までには、要望とか目標の件につきましても、しっかり協議して参りたいと思います。

座 長 他には何かありませんか。

委 員 資料 1 の 24 頁「こどもと学生のふれあい活動支援事業」ですが、赤穂市の場合は、関西福祉大学へ小学生が行かれたということですが、備前市が 13 名、上郡町が 2 回で、27 名と 28 名と書いていますが、この時も関西福祉大学から学生が何人か来て宿題などを教えられたのですか。

アドバイザー 赤穂の場合は、関西福祉大学、それ以外は行かせていただいています。赤穂だけは大学の中でし、毎回大盛況で、親御さんも一緒に来られ、数が多いということです。備前、上郡の場合は、数は違いますけれども開催いたしております。

委 員 小さい頃のこういう大学生とのふれあいは非常に良いことだと思います。8 月の終盤ぐらいに中学生を対象にさせていただけたらありがたいと。というのは中学生になりますと夏休みは部活などで色々スポーツ大会へ出場していますから、な

かなかこういう機会には恵まれないと思います。この予算を見ると大体7割ぐらいは執行されていますが、3割は残っていますので、そういうところでなんとかしていただけたら良いのかなと。特に中学生は部活もあり夏休みでもゆっくり家ではできないということで、宿題が遅れがちではないかと思います。大学生さんに宿題をみていただいたら勉強もスポーツも両方良くなると思うのですが。

アドバイザー まず、中学生につきましては、さきほどのお話のよう学校からバスで来ていただくという事業をしています。これは、全ての学校から授業で来ていただき、本学の3つの関係分野、社会福祉と看護と教育の分野で行っています。夏休みの宿題の件ですが、実は学生は、お盆までは授業がございまして、試験が終わった辺りで学生に手伝ってもらっています。もうひとつ会場の件で、うまくやれば、中学生までフォローできるかもしれませんが、学生も忙しくしており、試験が終わりましたらすぐアルバイトをするといった学生も多いもので、学生と会場が確保できれば、中学生についてもできるかもしれません。ただ、私の学部は、小学校教員の養成をしていますので、そういった意味では学生たちにとっての学び場ということで、小学生を対象にやらせていただいています。中学校の免許過程がございせんので、そういう意味でも小学校というご理解をいただければと思います。

委 員 続きで、これを見たら備前市が13名とすごく少ないのですがどうしてですか。

アドバイザー 備前市は、土日とか夏休みにまなび塾というのをしっかりやられています。いわゆる、公共的な塾のようなかたちです。これは赤穂市にはなく相生市はあります。私どもの学生たちがインターンシップという形で、今年度は、2つの公民館だけですが、行かせていただきボランティアをするという形です。土日と長期の休みについては、備前市は他のまちよりは良くできていると思います。それが影響しているのかと私は思っていますが、はっきりは、私では分かりません。会場が小さかったのか、学生が集まらなかったのかも分かりません。

事務局 先生が言われましたこともありますし、子供たちも少年団など忙しくしていますので参加しにくいのではと思いますが、引き続き案内はしていきたいと思います。

座 長 他にはよろしいですか。

委 員 資料1の15頁から16頁の観光振興の推進ということですが、16頁の予算と事業費の関係は約半分しか使っていないということです。昨年も提案しましたが、昨年度の自治会の全国大会が金沢で行なわれて行ったときにこんな良いパンフレットがあると。我々の場合でいえば、赤穂と備前と上郡、この3つがA4を3つぐらいに並べ連結した形になっておりまして、そこに大まかな地図があり、備前にはこういう観光、例えば閑谷学校、赤穂には赤穂城、義士祭、上郡には赤松円

心、白旗城、これらを一目で分かるものを作ればこの事業の趣旨である3つが一つになってやっているということで、面白いのではと提案したのですが。例えばどのコースに何があるかという事が見て分かるようなものを作れば、東備西播の連結した活動になるのではないかと申し上げましたが検討いただいたでしょうか。

説明員 私も今年初めて観光部会という事で来ており、昨年度、検討したかどうかという事は正直申し上げて聞いておりません。ただ、来年度そういったかたちで、3市町を巡るようなリーフレットであるとか、パスポート的なものも現在検討中でございますので、ご意見を踏まえて部会のほうで検討して参りたいと思います。

委員 ありがとうございます。最近テレビでも良くやっていますが、結構あちこちまわっている人が多いみたいですね。そういうものがあれば、赤穂に行って、備前に行って、上郡に行くとPRになると思いますのでよろしくお願いします。

委員 この定住自立圏は22年度から始まりまして、この経過報告の22頁、民間イベント助成事業がありますが、今回はこの中に入っていないんですが、2市1町のまち歩き、「まちぷら」という企画を5年間続けてやりました。先ほど言われているように、3市町の良いところを巡る企画を5年間続け、最後の2年間はバスで巡り2市1町の特徴を出していこうという企画を続けてきました。このようなイベントを民間イベント補助事業の中で行い、これは完結したのではないかなと思います。といいますのが、観光協会とか、観光課というものがあつたときに、観光客を直接募集して行うのはグレーゾーンになります。旅行会社をお願いしながら、逆に企画・立案し、今はこういう形になっていると思いますが、そこにぶちあたりました。尚且つ、今まで旅行者を巻き込んだ中で、2市1町をバスで巡った経緯があり今後については、これを含めた計画が、多分、今、課長が言われたことに入っていると思うのです。やってないわけじゃなく、こういうのを進めていった経緯があります。私は観光をやっていますので、そういう意味でひとつ報告をさせていただきます。もうひとつ質問してよろしいでしょうか。2市1町でやってきた時に一番気になっていたのが、情報提供をどのようにしていくのかという事です。例えば20頁にある「地域情報ネットワークシステムの構築」で、「ともりんく」というものがございます。これも当初から経費をかけ構築しながらされていると思いますが、今行政がやっている「ともりんく」を見ていただくと活動していないような状況になっていると思います。尚且つ、そこには行政からの連絡事項、報告、イベント事業があると思うのですが、これを市民が使えるような活動にしていけないと、医療や福祉、教育の関係は、全国で見ても2市1町がやっていることはすごく良いことだと思いますが、あと雇用の確保をして、産業が関わるような、定住自立圏の本質に関わることの作業を皆さんがされている中で、できていないのではないかと、今後の課題にあがるのではと思ってい

ます。それについて 28 年度ないし 29 年度の報告の中に何か形として残していかなないと雇用の確保をするために、今後、産業振興をしながら魅力ある 2 市 1 町にしていこうということをもう少し議論できたら良いのではと私は感じました。

委員 先程言われたことと若干関連しますが、資料 18 頁の企業誘致の推進で、28 年度は予算が 30 万ほど減額になっている。少しネガティブな発言かもしれませんが、予算を使い切れという事ではありませんが、2 社、誘致したけれど、3 社 4 社出ていったということでは、差引マイナスで、既存の企業についても意向調査をしていただけたらという提案でございます。

説明員 企業誘致の件ですが、もちろん誘致も大切ですし、今ある企業をいかに、外に出ていかないよう繋ぎとめていくかという事も雇用の確保の上で非常に大切なことだと思っております。企業誘致の部会に持ち帰り、伝えて参りたいと思います。

座 長 他にありませんか。

事務局 「とりんく」の件ですが、ご覧になった方もおられると思いますが、2 市 1 町の連絡用ページのようになっています。情報の発信が非常に少ないと言われると、その通りで部会のほうに持ち帰り、運用の仕方を考えていきたいと思えます。

座 長 よろしく願いいたします。他にございませんか。

委員 今、海外からの観光客が非常に増えていて、岡山にも増えている。この地方にもかなり来られていると思います。先日、備前のボランティアガイドの会長さんと話をしたら「スケジュールがものすごく詰まっているんです。」という話をされたので、恐らく海外の方も含まれていると思います。この多い中、3 市町の観光客がどれくらい増えたかと把握されているのか教えていただけたらと思います。

説明員 すみません。その辺りについては、把握できておりません。

委員 よく何%増えたかというデータが山陽新聞なんかにも岡山県内の観光地という事が出ていたと思いますが、テレビでもしきりにインターネットで外国から日本の事を見て情報を収集していると。ならば、3 市町それぞれ、閑谷学校や海や魚、赤穂城とか特に韓国なんかは儒教の国ですから、忠義とか信義とかそういう事を持った国、それから山城、これは日本向けですがこういうものを、もっともっと東南アジアや韓国、中国、台湾などへ向けて発信するのも良いと思います。

説明員 韓国、東南アジア、あとは欧米関係もあります。いろんなところへ国もインバウンド政策ということで 2020 年に向けて観光客を倍増するという施策をうっていますので、圏域内においても対応すべく協議を進めて参りたいと考えています。

座 長 これで、皆さん一通りご意見をいただきまして、ありがとうございました。これで東備西播定住自立圏共生ビジョンの進捗状況についての報告を終わりたいと思いますがよろしいでしょうか。

(よろしい)

それでは、次の「4 協議事項」に入りたいと思います。「東備西播定住自立圏共生ビジョンの見直し（案）」について事務局から説明願います。

事務局 事業進捗状況及び協議状況を踏まえまして、来年度に向けた共生ビジョンの見直し（案）を説明いたします。資料4をご覧ください。

（資料4 説明）

以上で平成29年度ビジョンの見直しについての説明を終わります。

座 長 これについて、何かございますか。秋川先生ご意見をいただけますでしょうか。

アドバイザー 圏域にある唯一の大学ですので、先ほどの報告等々を含め新しい情報をお伝えしたいと思います。一つは、本学は来年4月から看護学部にも博士課程が出来ます。ドクターの称号をとる人たちが育つという事になります。大学は看護ですけど、学部、修士、ドクターとなります。特に看護に力を入れておりますので、また地域看護の分野も、実は博士課程を持てる教員は全国でも数が少ないマル合といいますが、そういう資格を持った者でないとドクターの課程をもてません。文科省の審査を通り国立大学の教授のような方々が何人も来てくださるという事で、全国に自慢できる大学になると思っております。特に看護職員の研修等是非、お引き受けできることがあるのではないかと思っております。私は看護の部長ではありませんが、そういった優秀な先生がたくさん集まってこられ、博士課程の学生が入ってくるので、ほとんど現職の看護のエキスパートになります。学歴上たまたま修士課程しかもっていない方がいらっしゃいますので、それと同じようにドクターを出すようになってきます。ぜひ、看護職員等の研修の事や、あるいはお医者さんのこともあると思いますが、ご協力できると思っております。それから私どもも民間ですので、公立だけという発想ではなくて、ぜひ民間の看護師、保健師、その他学校の養護教育という課程もありますので、ご活用いただければと思います。それから、このプランの変更の事です、中学校の吹奏楽の事で、大学の方ではオープンキャンパスでAKBだけではありませんが、高校に声をかけ、吹奏楽の方に来ていただいて指導しております。日生先生という大変著名で海外で活躍し、兵庫県の吹奏楽の様々な審査のトップをやっておられる方が、本学におられ、その先生に指導をしていただいています。今、中学や高校に混じって吹奏楽のボランティアとして指導に加わっておりますので、もっと出来るかなと思います。と言いますのも、本学は来年度からこの吹奏楽をメインにしたクラブを作っていくという事で、指定強化のクラブになってきます。全国から本学に入学してくる優秀な奏者を集めようという事で今やっております。ぜひ、その点でもご協力できたらと思っております。もうひとつはスポーツの件でも名前が関西で知られるように強化をしているところです。サッカー、バレー、剣道、野球部という辺りです。だんだん力をつけ、サッカーのほうに関西に沢山ありますが、

2部のA、もう少しで1部に上がれるところまでできております。Jリーガーもこれから出てくるだろうと思います。それからバレーも2部リーグに上がって参りました。剣道も今年は全国大会には出られませんが、全国大会に出るような素晴らしい選手がおります。という意味で、子どもたち、市民とのスポーツでもいろいろと一緒にやるのではないかと考えております。Jリーガーが我が大学のグラウンドで練習していますので、見に来ていただければと思います。なかなか時間がないと思いますが子どもたちがサッカーを経験してくれたらいいなと思います。これに伴って来年4月には大別館を建てるという事で体育館も、もう1棟増築することになっております。スポーツ、吹奏楽に力を入れておりますのでご協力できたらなという事を申し上げました。先ほどのビジョン変更の給食の件では、私の学部の学生たちがモニタリングの調査でモロヘイヤのスープを食べさせていただきました。新しい商品の開発をしておられるところで、出来ましたら学食で出していただければ大変いいかと思っております。私はプレゼントにいただいたモロヘイヤのふりかけをいただいております。給食を広域レベルであわせていくという事はすごく大切なことだと思います。後ほど申し上げようと思っていたのですが、皆さんがおっしゃったPRがすごく大事だと思います。先日、新聞に相生のPRのことが出ておりました。私はYouTubeで早速見せていただきました。「あいのまち相生」というテーマで、神戸からの移住を決める親御さんたちのアニメーションでとても良くできたものでした。給食が幼稚園から中学校まで無料。そういう意味では、相生はいろんな面で子供たちにお金を使っている。先ほど言った備前市でされているまなび塾のようなものもやっています。それから英語の先生がいてイングリッシュキャンプという子どもたちが英語にふれる機会を用意しています。学習支援センターもあります。ペーロンの話からなにか、それらが物語になったすばらしいアニメーションを作っておられます。それが新聞に出て、いろんなところに出て、私のように見てみようかなというふうになります。私は授業の中で学生たちに「こんなすてきな子育て支援のPRもあるよ」と見せることもありました。PRはすごく大事だと思います。インターネット、YouTubeなどに載せていくことも大事なんじゃないかと私も思っています。その点でどうもこのプランを見ていると今住んでいる方は住みやすく出ていかない、これは企業も含めてです。そういう発想はもちろん大事ですが、まちが存続するという意味では、どうしても移住してもらわないといけませんから、どういうことを魅力と感じてもらえるか、こちらに来てもらえるかということです。どこの地域でもやっていますが、縁結びの事業で、縁あって結ばれた方たちが、この地域に住み子供を育てるということ。もちろんそのためには仕事的大事ですしいろいろと大事なものはありますが、ここに来て住んでもらうために、何をもって一番魅力だ

と感じてもらおうかという事を上手に発信していくことだと思います。もちろんまちの名前自体を知ってもらわないといけない。これは兵庫県側の方はご存知だと思いますが、昨日から三田市は市の名前を変えて市長さん自らサンタさんの格好をしてまちを挙げて「サンタ市」と言っています。トップをあげてそういうことをやっているのです。こういうところをもっと使いながら3つのAKBを出していけばいいと思います。この3つがお互いwin-winの関係になるような形でセットに、先ほどの観光ルートもそうなんですが、どこかのまちだけではなくで3つが上手に繋がっている、協力しあっている、その姿をPRをして外に出していき、そこで来ていただく、住んでいただく、そんな発想になっていただけたらいいなと思います。もちろんいらっしゃる方にサービスをしないといけないというのは当然のことですが。限界集落のまちがたくさんあることを私も知っていますので、人が住むようになってくれなければ、そのまちは存続すら難しいという状況でございいます。そのPRのやり方ですが、3市町が行政のところで連携をしてやっていくので、当然、自分のまちのサービスの事を一番に考え、行政的な発想で繋がっていきます。ところが、今は、まちづくりは民間の力です。民間をどう巻き込んでいくか、それがまちづくりになると思います。そこに補助をしていくのは非常に大事だと思います。その点で申し上げますと、これから若い人たちがここに来て子供を産んで育てると時間をかけて定住ができるという事になります。若い人にきていただくことが定住を進めていく大事な要素だとすれば、教育は本当に良いものが3市町共たくさんあると思うのですが、子育ての部門が重要です。去年も備前市でされている事業の話をしたと思います。たとえば、プレーパーク。あと西播地区で言えば龍野にしかないという状況でしたので、赤穂の方はこちらに來たり龍野に行ったりしていたところ、やっと今年から赤穂にプレーパークが民間で出しました。これらを支援し3市町が連携していくという発想です。赤穂は実は来年から、子ども食堂という安いお金で食事を提供する事業が進んでいます。これは行政側がやるというよりは、民間でされていることですから、そこを支援していくことがPRで外に出ていく、そこへ行けば地産地消で安全なものを食べさせてくれる。医療でも子供については手厚い、赤穂は、西播どころかおそらく兵庫県のトップクラスで医療の病院が多いところだと思います。そういう意味では、住むうえでは大変安心なですから、それを宣伝していくというように。良いところをなんとかネット上に出してみんなに見ていただくという事を意識していくと良いのかと思います。もう1点だけ、効果をあげていくという事は絶対大事なことだと思います。民間ベースで考えると効果の上がらないものにいくら費用を継ぎ足しても意味がないというのは当然のことです。我が大学でも目標、計画を立てます。それは到達できたかどうかという事を、中期、長期計画等あり

ますが、何がどうなったら到達したといえるのかという指標をしっかりと設けてチェックする。到達しなければ、なぜしないのか。方法が悪いのであれば予算をつけないとか、非常にシビアにやっていると思います。計画をきちんと立てて、効果があったのかどうかを評価するためには、きちんとした指標をもつという事は、民間では当たり前です。それがこういった事業を展開する場合も大事だと思います。そして新しいメディアを使ってどんどん宣伝していくという事です。基本的にはここに上がっているビジョンの色々な側面というのは、十分すぎるぐらいだと思います。あとはどうやって効果を上げるかというところに、我々ももっともっと視点をあてる必要があるかと思います。従って今回の計画もこれで良いと思いますが、お金の使い方も含めきちんとした指標をもって計画も厳密に立てて、効果がどういうことによって上がったか、それを明確にするという民間企業的な発想ですけれども必要です。どこも必死になって人を集め、企業を誘致するということをやっています。我々も学生を集めるために、どれほど一生懸命やっているか。明日も入試で先週も入試でした。色々な形態の入試を用意し学生たちが受けやすい形にして、何とか定員を確保できるようにしています。そのための戦略は何回も何回も練り直していくという状況です。そういう私の立場からすると是非効果的なPRの方法を考えていくこと。テレビ出演は大変結構な事ですが、本当にみなさんインターネットを見て動いてらっしゃる方が多いので、どうやってネット上でみてもらうか。オープンキャンパスをネット上にも出します。それで「今日行ったよ」なんてことを拡散していただくと、それで特典がもらえる。それでひとりが他の方に伝えてくださる、そうやって広げていかないとPRはうまくいかないと思います。ホームページに置いてそれを見てくださいといってもいつまでも見てくれませんので、見に来てくれるようにしないといけないと思います。今我が大学は、検索したら、より上位に上がるように、そのための手段を色々考え工夫しています。そこまでやって自分たちの事を知ってもらい関心をもってもらおうという事です。そういうことを考える必要があるのではないかと思います。あれこれ申し上げましたが、枠組みの問題ではなくどうやって効果を出すかという発想で計画の推進をするという事がまとめると一番大事だと思います。そういうことを是非連携してやって、それがなんとかwin-winの関係になるようにすることができたらいいと思います。みんなが力を合わせてなんとかこの3つのまちをひとつの圏域として発展させることを本当に真剣に考えないと、どんどん人口が減って潰れる、そういう危機感を持たないといけないと思っております。赤穂市でも、上郡でもちょっと奥に入りますと人が住んでいないという状況を目にします。また町の中では空き家がすごく多くなっている、そういう寂しいまちになると、まち全体がどんどん活力を失くしていきます。活力を上げていくため

の企業誘致をし、そこで子育てができるまちにしていきたいと思います。

座 長 ありがとうございます。非常に中身の濃い話を聞くことが出来ました。他に何かありませんか。

委 員 先ほど秋川先生も言われたようにPR活動をどうやってするのかというのが、今後の課題かと思いながら出席させていただきました。備前市の中だと「広報びぜん」というのがあります。この中で市民が「定住自立圏とは」を理解する人がどれだけいるのだろうと、この辺を3市町の行政側がどうPRしていくのかというのが課題かと思っています。めくっていくと3月に「イベント活動を募集します」というのがあり、この結果報告が載っています。それ以外に例えば赤穂や日生のマラソンがありました。ここの予算が使われているのであれば、市民に定住自立圏の3市町が活動しているという事を認識してもらう事ができないのかと感じましたので、各市町の広報を活用し、是非、していただきたいと思いました。

座 長 ありがとうございます。これについて、何か事務局でありますか。

事務局 ありがとうございます。確かに定住自立圏のことを市民の方がどれだけご存じかは分かりません。事務局で広報等の活用も含め検討していきたいと思います。

座 長 ありがとうございます。他にありますか。

委 員 資料2でこの事業の歳入・歳出の数字がありますが、歳入の資料を見ますと歳入が59,307,533円、これは3市町の負担金になっていますね。負担金の割合というのは、どういう割合で負担するという基準があるのでしょうか。それがひとつの質問。もうひとつは歳出の件です。全く共通で使われているものと生涯学習施設の改修のように3市町が使っているものを合計した時にそれぞれいくらぐらい使っているか管理されているかどうか、あるいは基準があって公費のないような形でやっているのかどうか、そういう面の管理はどうやっているのかという質問です。最初の質問の金額の割合というのは、たとえば人口比率であるとかなんらかの基準があると思うのですが、その基準は外には出せないのでしょうか。

事務局 まず、負担金についてです。国から交付金が入っており、そちらで実施しています。当初、中心市の備前市に入ってきた交付金を使って3市町で事業を行っていました。現在は備前市に事業費の8割の交付金が入ってきますので残りの2割を3市町で負担して事業を実施しています。何を基準にしてということではありません。事業につきましては、一緒に行っていますが、回数の偏りとかは若干あると思います。施設の改修につきましては、各市町の負担で行っています。

委 員 簡単に言うところの中で8割が国から交付金として入ってきて、実際の負担は2割ということですね。分かりました。ありがとうございます。

座 長 他にありますか。

委 員 数年前、赤穂市の図書館で本を借りる際に「返却は備前市ではだめですか」と

聞いたところ、「赤穂市にきてください」と言われたのですが、今でも同じですか。

説明員 残念ながら、今もそのようです。ただ部会のほうで話をする機会は今年度もございますので、その辺の可能性についてはぜひ話をしてみたいと思っております。

委員 できればお願いします。私は備前市で一番西に住んでおりますので備前市に返すことができるようになればより良いと思います。

座 長 他にはよろしいですか。それでは、皆さんにお諮りします。東備西播定住自立圏共生ビジョンの平成 29 年度見直し案については原案のとおりとしてよろしいか。

(異議なし)

異議なしという事で承認をいただきました。ありがとうございます。平成 29 年度事業費の確定後に委員の皆様へ平成 29 年度版共生ビジョンを送付させていただき報告するという事でよろしいか。

(「よろしい」の声)

ありがとうございました。それでは次に「意見交換会」でございます。時間もしておりますが、定住自立圏を進めていく上でご意見等がございますか。

委員 先生にお伺いします。大学で留学生を受け入れることが可能かどうかということです。相談会は、どこの地域でもやっておあり特効薬があるのかないの。そういう意味で外国人留学生を受け入れる大学があれば増えるのではないか。またその留学生がこの圏域で定住することも考えられないのかどうかをお伺いします。

アドバイザー 本学は留学生を受け入れられないということにはなっておりません。受験をしていただければ可能性はありますが、本学の場合は日本の国の国家資格を出すもので、仮に外国人の方が日本の教員免許をとっても、自分の国では使えません。資格にあまり関係ない例えば経済学部のような学部であれば、もっと来られるでしょうけど、その点では、留学生は非常に少ないということになります。入ってくる事になれば、それなりの仕組みを作らなければなりません。一方で本学は福祉の大学ですので、障害をもった学生は沢山います。今度センター試験がありますが、本学でも様々な便宜を図り、今でも車いすの学生や聴覚の不自由な学生についても受け入れをしています。可能であるという事を申し上げたいのですが、資格・免許を取っても、日本で勤めにくいということであれば、留学生は少ないと思います。積極的に留学生を入れていきたいと思います。今のところはなっていません。

委員 移住促進の方策として色々な考え方があると思うのですが、何か有効な手段があれば、教えていただきたいと思います。

アドバイザー これは本当に難しく日本中で取りあいになっているという事ですから、企業等の誘致の中で外国の方々を沢山採用する形で多くのところはやっていると思います。小学校や幼稚園、保育園に外国人のお子さんは沢山いますから、国際理解教育と言いますが、そういったことを充実させるということは、どこの地域でもし

ています。一方で外国人の方が多くなった場合、様々なトラブルがあり得ますから、それに対する仕組みも考える必要があります。3 市町でそういう形でやっ
ていこうという事であれば、よっぽどやらないといけない。総社市は、かなり定住
される方もいるように伺っていますが、日本中での若い人たちのとりあいという
ことで、労働力そのものがだんだん少なくなっていますから立派な企業にきてい
ただき、そこで生活ができるよう企業誘致の力によって産業が浸透、派生するよ
うになれば、文化や教育なども派生的にできてくるかなと思っております。

座 長 ありがとうございます。他には何かありますか。

委 員 実現が不可能なような発想ですが、私は日生から赤穂に出たりしますがE T C
で県境を越えたら「兵庫県に入りました。この地域は東備西播定住自立圏地域で
す。」というアナウンスができれば、かなり興味を惹かれるというか、システ
ムの費用面でも大変難しいとは思いますが、アピールができればいいなと思
います。

座 長 秋川先生他に何かありますか。

アドバイザー 項目は全部出揃っている気がするので、あとはこの効果を少しでも上げてい
くという発想で進めることが大事だと思います。ただ定住自立圏は3 市町が一緒
にやっているという事を、なかなか市民の方は知らないと思います。AKB と書いて
いるポスターは見たりしますが色々な事業をする中でもっと目や耳やいろんな方
法で伝えと、馴染んでいくと思います。言葉自体がややこしくて馴染みにくい
かもしれませんが、キャッチコピー的なものを作り皆さんにお伝えするとお互
い行き来もするようになると思いますし、我が大学も3 市町と提携を結んでおり
ますし、また高校とも提携を結んでいますので3 市町には毎年必ず行かせてい
たしますが、もっと市民サイドで動けるものがあってもいいかなと思います。

座 長 ありがとうございます。それでは、意見交換につきましてはこの辺で終わ
りにさせていただいて、次に事務局から「その他」ということでお願いをします。

事務局 共生ビジョンは毎年見直しをすることとなっておりますが、その際には懇談
会に諮ることが必要となっており、本日ご検討いただきました。先ほど、ご承認
いただきました平成 29 年度共生ビジョン見直し案につきましては、事務局で、総務
省との協議等諸手続きを経て、年度末までにビジョンを公表いたします。秋川先
生をはじめ、委員の皆様方からいただいた貴重なご意見も踏まえ、地域全体にお
ける生活機能が向上し、圏域の魅力が向上するようなビジョンにして参りたいと
思っておりますので、よろしくお願いします。

座 長 事務局からの説明が終わりました。特に無いようでしたら、締めに入りたいと
思います。よろしいでしょうか。それでは、本当にみなさんごくろうさまでした。
一皮むけたと言いますか、次のステージに上がったような会でした。それはやは
りひとつには、今日おいでの皆さんの資質、格式の高さ、また、事務局の説明の

分かりやすさ、そして、秋川先生の適切なアドバイスがあったからだと思います。
どうも皆さんありがとうございました。